

Human City くもと 地域と気象

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

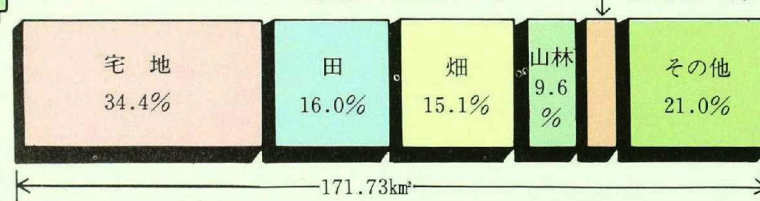
気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

気温は年平均16.5℃前後で、昭和62年の最高気温は7月の35.8℃、最低気温が2月の-3.8℃となっています。年間降水量は約2,750mmで、4月～9月の半年間に7割以上の降水量があります。また、風向きは春から夏にかけて西南西の風が強く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通して2 m前後のゆるやかな風が吹いています。

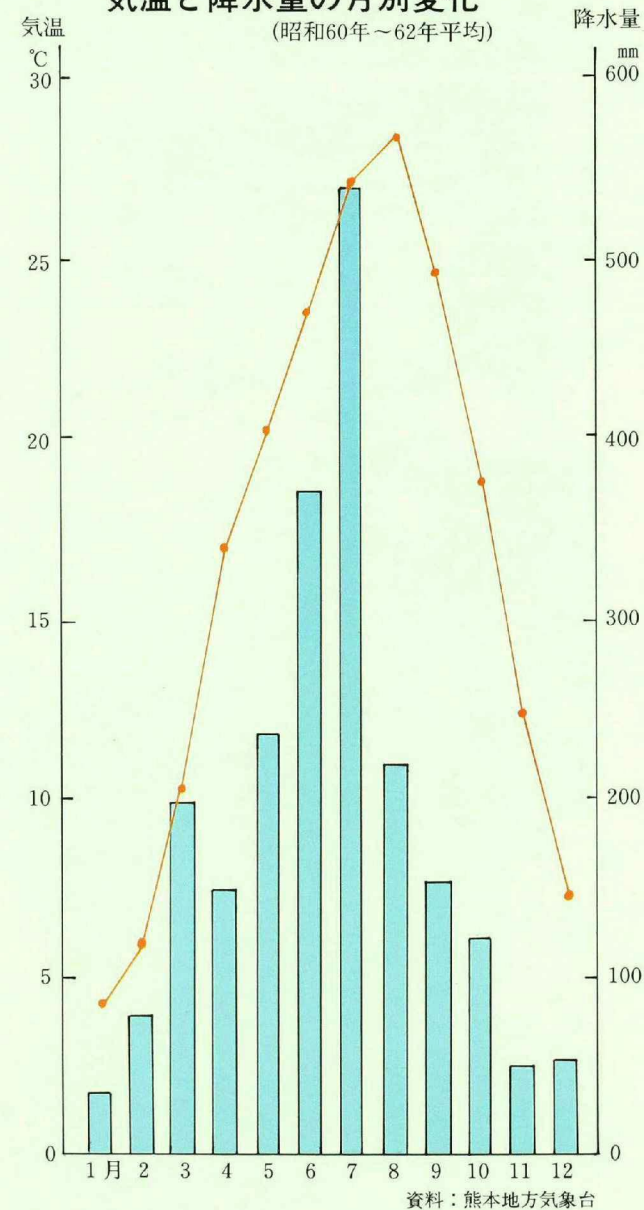
位置・面積 (熊本市役所)

東経 130°42'38"
北緯 32°48'00"
東西 21km
南北 14km
面積 171.73km²

地目別面積割合



気温と降水量の月別変化 (昭和60年～62年平均)



Human City くもと 人口

明治22年、市制施行当時42,725人 (M. 22. 12. 31現在) であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、昭和63年10月1日現在では570,791人 (201,261世帯) になっています。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.84人となっています。

熊本市の人口を昭和60年の国勢調査でみると人口555,719人で熊本県総人口の30.9%を占め、全国で16番目、九州では福岡市、北九州市に次ぎ3番目の順位になっています。

また、55年国勢調査と比べると30,057人、5.7%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が21.5%、15～64歳の生産年齢人口が68.7%、65歳以上の老年人口が9.9%となっており、55年より年少人口の割合が1.0ポイント低下したのに対し、老年人口が1.1ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、およそ東部に23万人、北部に11万人、中央部に8万人、南部に7万人、西部に6万4千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

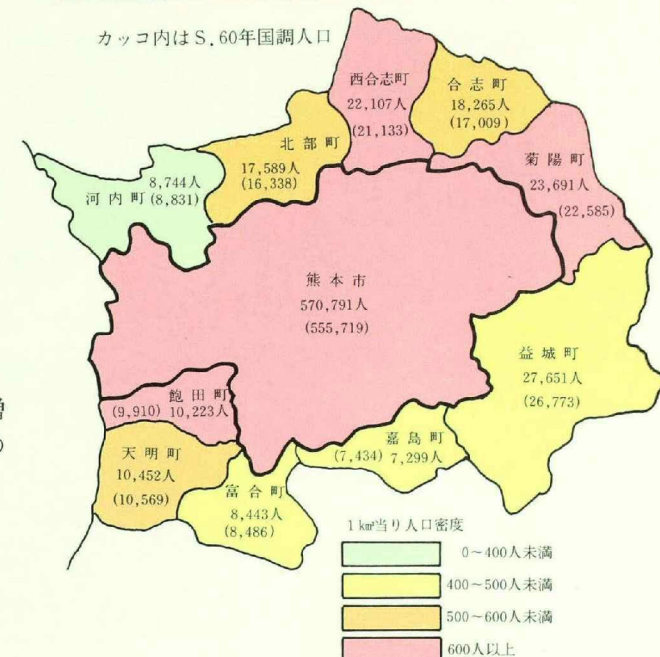
なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、昭和60年では、第一工業高校運動場やや東寄りに移動し、相変わらず東部方面の人口が増加していることを示しています。

都市圏人口

本市と周辺10町からなる熊本都市圏の人口は、昭和63年10月1日現在725,252人 (243,290世帯) で熊本県総人口の39.3%を占めています。人口増加率は、熊本都市圏が1.0%、周辺10町が1.3%の増加で推移しています。



●熊本都市圏の人口分布図(昭和63年10月1日現在)

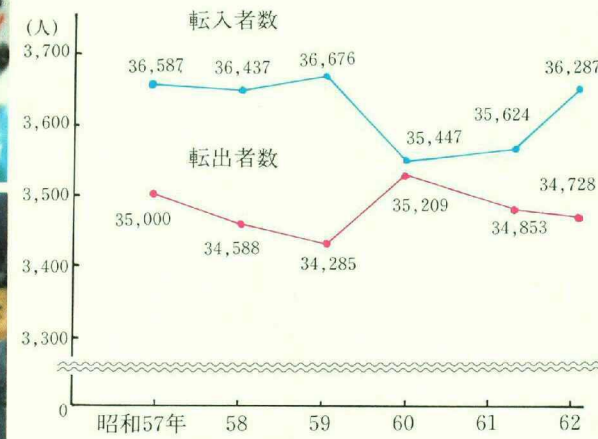


都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後の増加で、ほぼ一定していますが、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

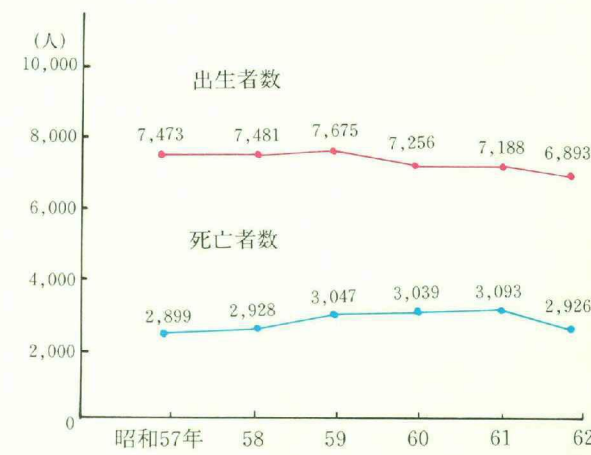
昭和45年から60年までの15年間の都市圏人口の増加数は約15万1千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均6千人から7千人の増加を続けています。



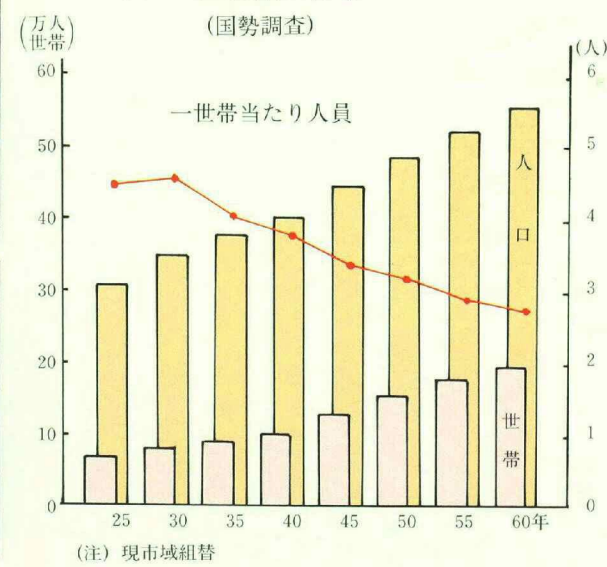
社会動態



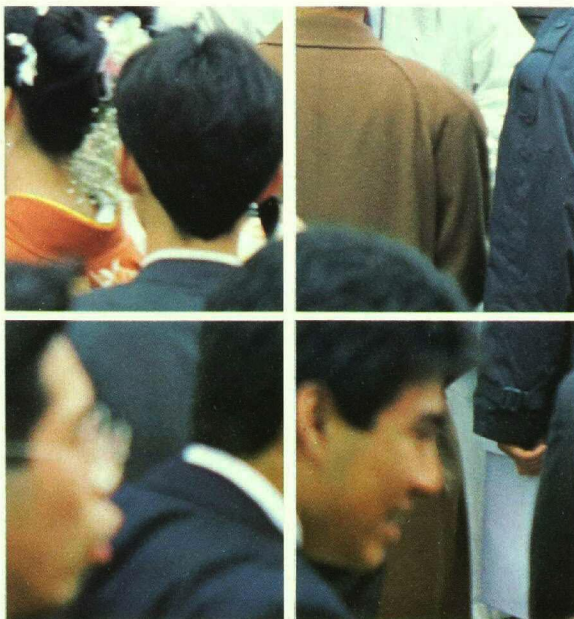
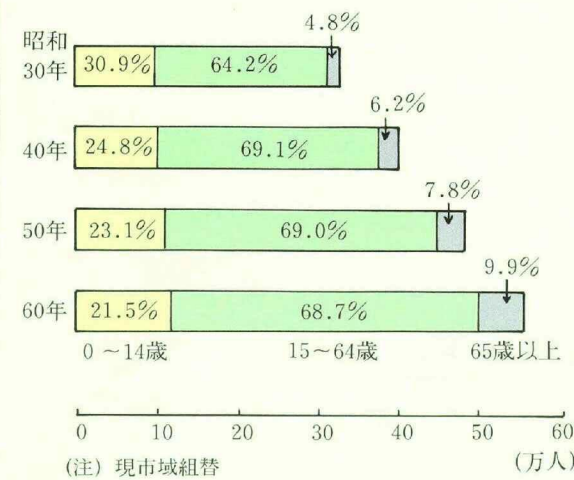
自然動態



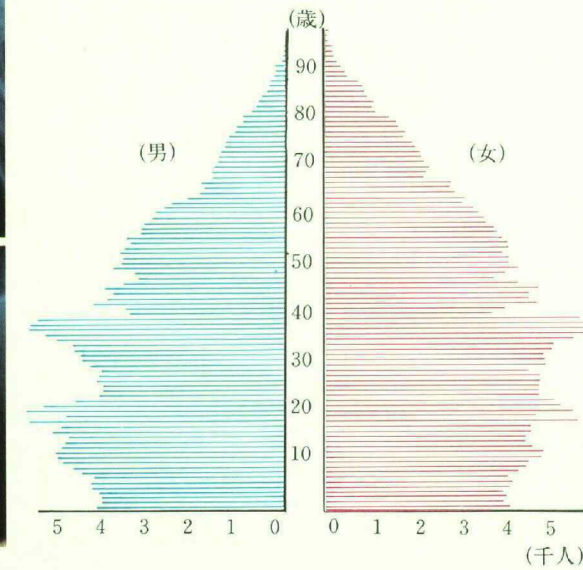
人口・世帯数の推移



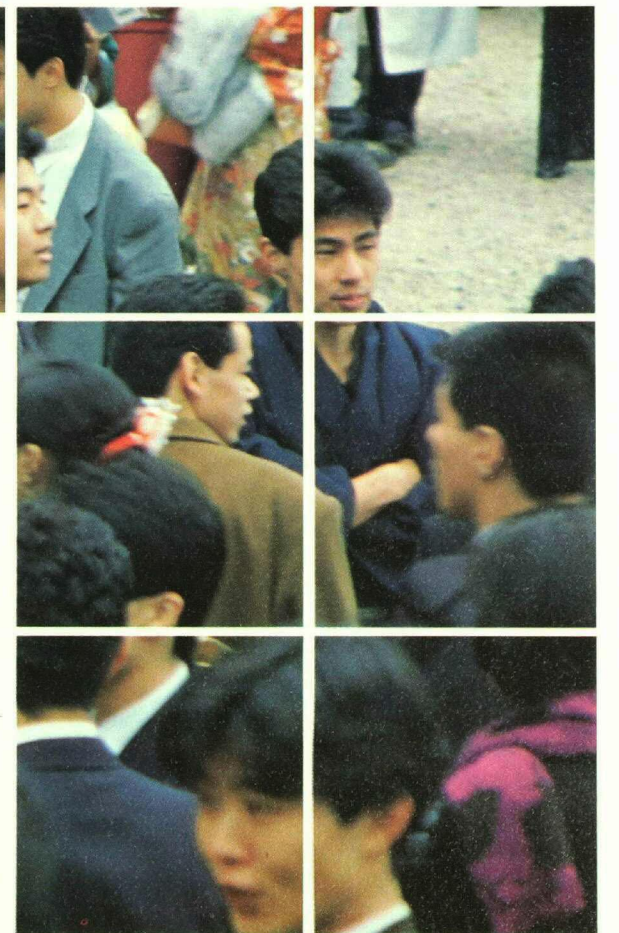
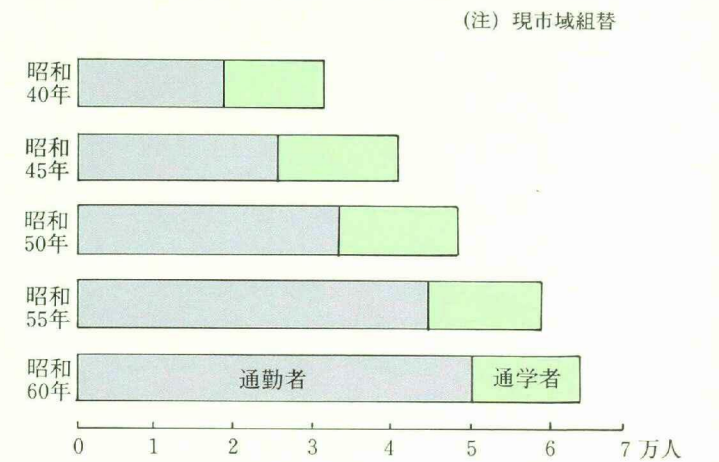
人口の年齢(3区分)構成推移(国勢調査)



年齢別人口構成(60年国勢調査)



流入人口の推移(国勢調査)



特別な年だから、

くまもと百彩

熊本市制100周年記念行事

特別なイベント。

くまもと みどりの祭典

—— 熊本の魅力の再発見 ——

記念すべき市制100周年を祝うとともに、熊本の自然・歴史・文化などを市民一人ひとりがふれあう中で、熊本に対する思いが芽を吹く萌える緑のフェスティバルとして、市内外を舞台に各所で繰り上げられます。



熊本百彩
熊本市制100周年1889-1989

- オープニングフェスティバル
 - ・ オープニング……………4/1
 - ・ ふれあいセレブション……………4/1～4/2
 - ・ ふれあいウオーク……………4/2
 - ・ くまもと100年のあゆみ展……………4/2～4/9
- 水源涵養林記念植樹祭……………4/16

- フラワーフェスティバル……………4/23～5/7

- こどもイベント
 - ・ こども一日議会……………5/2
 - ・ 動物園チビッコ
 - ・ ゴーゴーフェスティバル……………5/5

- くまもとグルメフェア……………4月～11月



くもと 火と光のカーニバル

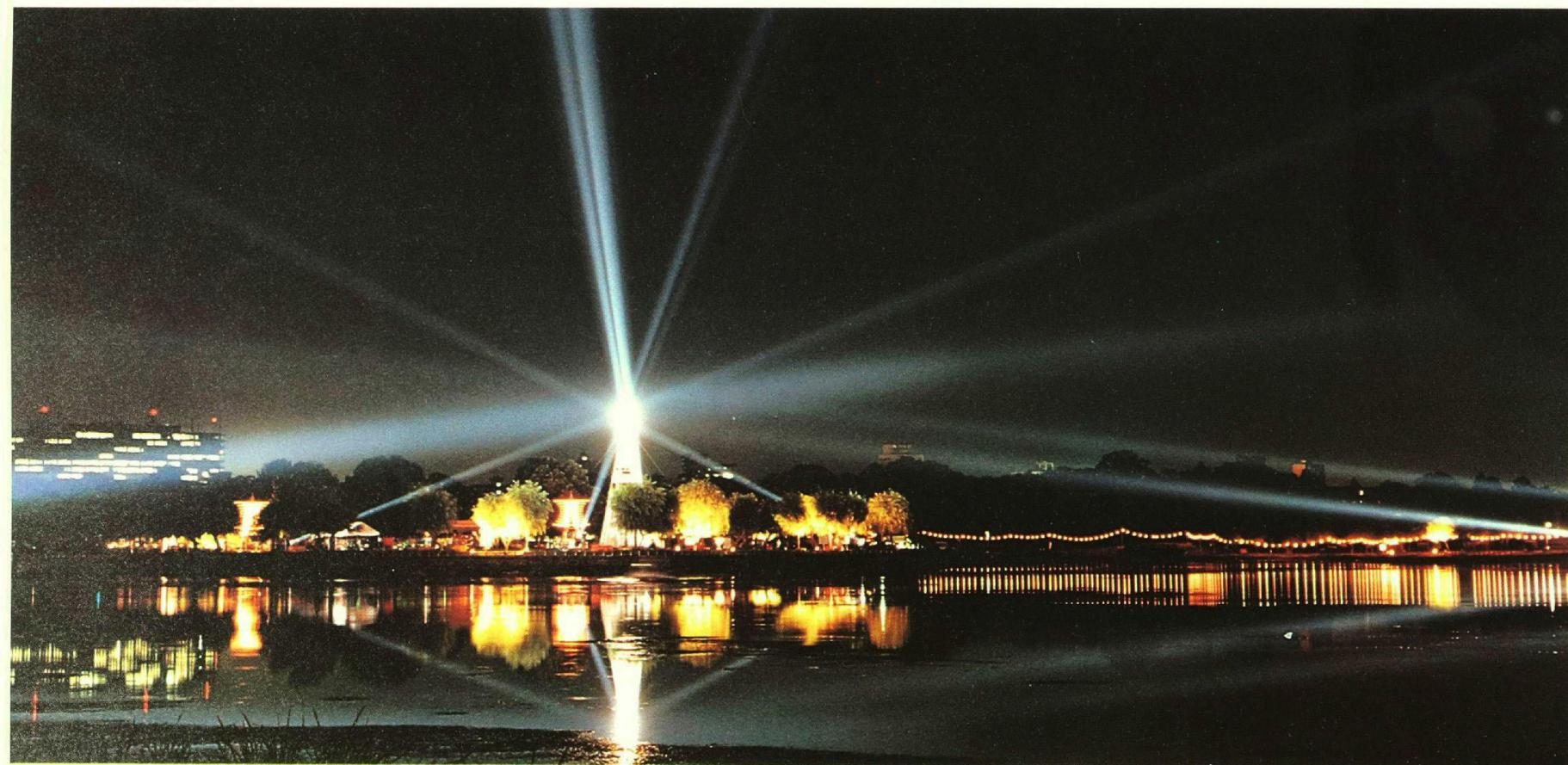
熊本の魅力の創造

昭和53年に始まった熊本の夏を代表する市民のまつり「火の国まつり」を今まで以上にスケールアップするとともに、市民の憩いの場である江津湖を「火と光」の幻想的なイルミネーションで飾る「江津湖まつり」を盛大に開催します。



火の国まつり総おどり

- 江津湖まつり8/5~8/10
- 市民芸能文化祭8/6
- 火の国まつり8/11~8/13
- こども科学展7/25~7/30
- 市制100周年記念
「二一ハオ金絲猴」...8/1~10/31



江津湖・火と光のカーニバル

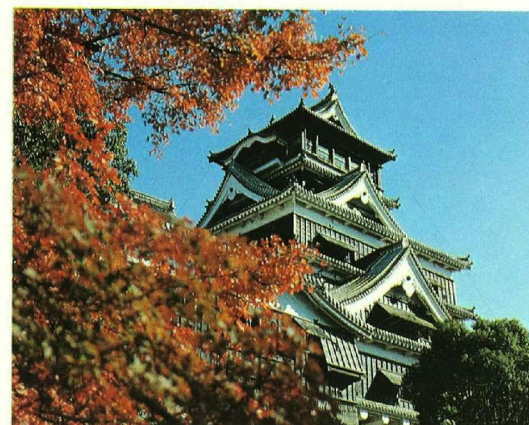


くもと お城ページェント

熊本の魅力の未来発信

熊本市民のシンボル熊本城を中心に、100年のクライマックスにふさわしい、音楽、芸術、舞踏、ファッション等を総合的に演出した一大イベントを展開します。これを新しい熊本の文化として、全国に、そして未来へと発信します。

- 市制100周年記念式典10/1
- 歴史都市サミット10/2
- 熊本城フェスティバル9/29~10/1
- 国際交流の夕べ10/2
- 市民美術展10/21~10/25
- 市民ふれあいオリンピック10/29
- フィナーレ10/29



「ヒューマンシティくもと」の未来を力強くイメージしたシンボルマークができました。

次なる100年に向け、更なる飛躍を目指す熊本市のマークとして、愛され、親しまれることを願っています。

作者は画図町の廣重江実子さんです。

市制100周年マスコットキャラクター
ユウユウ



©熊子スタジオ

都市の 年輪

くまもと市制100周年。
先人たちの努力に感謝し、
未来あるこどもたちを祝福する、
記念の事業や制度を
企画・実施します。

市制100周年への対応

GREEN

Human City くまもと

記念事業

●熊本市流通情報会館の建設

中小企業の経営者や従業員のための研修室、地場製品などの展示場などを配置した同会館は、九州中央の流通・情報の拠点として、地域経済の振興を目指します。市南部の国道57号東バイパス沿いの流通団地1丁目に市制100周年記念事業の第一号として今春完成します。

●シンボルゾーンの整備事業

都心機能の活性化を図るため、花畑、辛島公園周辺の道路空間の整備及び美化を行い、本市の顔としてふさわしい景観と快適な交通環境を創出するため、昨年の8月から整備を行っています。さらに、シティホールや地下駐車場などの建設構想も進めています。

●総合婦人会館

カルチャーセンター(仮称)の建設

来年3月の完成を目指す総合婦人会館・カルチャーセンター(仮称)は、女性が自由に交流し、その個性と能力を発揮できる総合的な会館と、自由に学習や交歓ができ、市民文化の創造と発展を目指すカルチャーセンターの二つの機能を持った施設です。

●水源かん養林造成事業

豊富で日本一おいしいといわれる地下水を後世に残し、また守るため、本市上流の地下水かん養地に造林を行うものです。市制100周年記念行事として、4月16日に、記念植樹祭を行い、その後も年次計画に基づいてかん養地域での造林事業を進めていきます。

●人づくりに関する新制度の創設

大きな節目の時期にあたり、21世紀へ向って飛躍を目指す熊本市の次代を担い、国際感覚豊かで、本市経済をリードし活性化へ導けるような有能な人材を育成するため、新しい人づくりの制度を創設します。

このほか、記念公園建設構想や海洋水族館建設などを推進してまいります。

